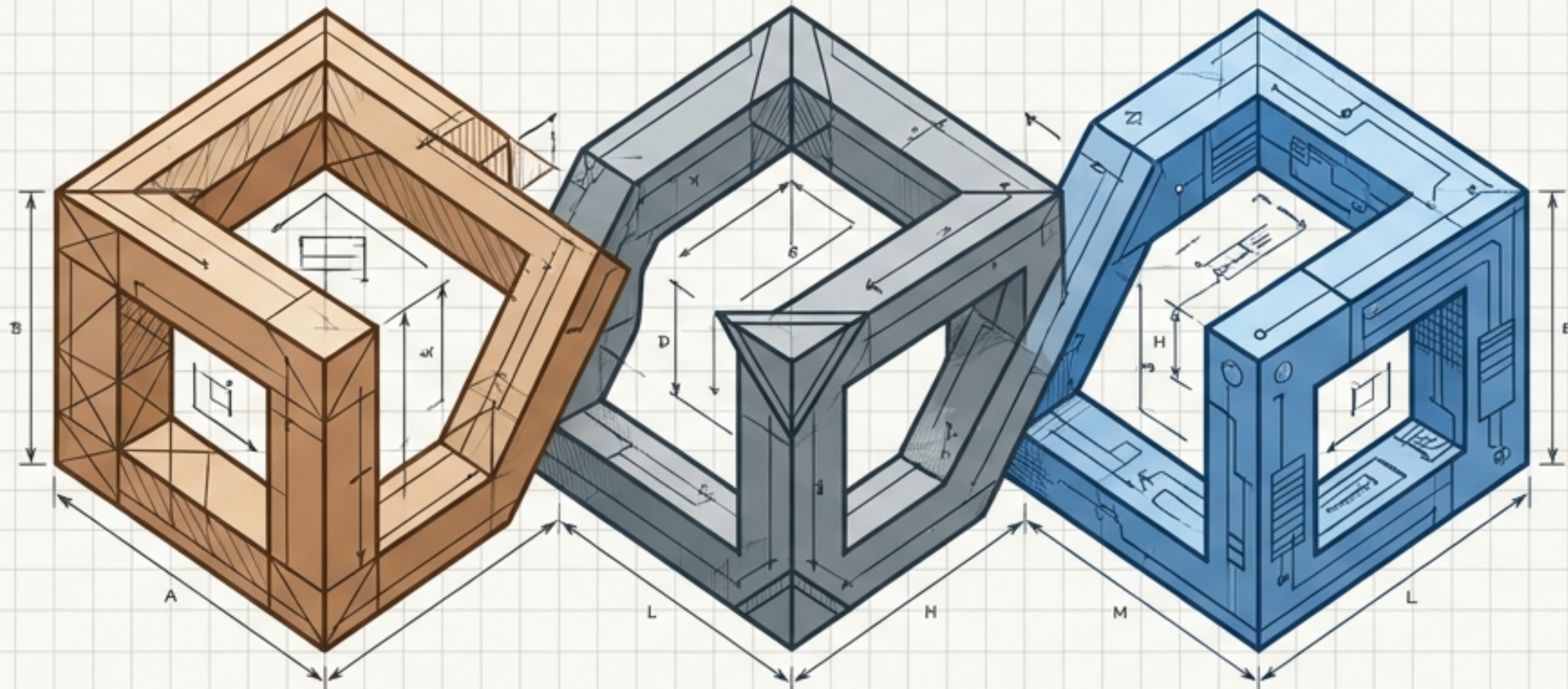


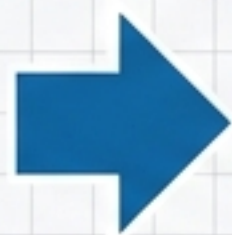
# Claude Fable 5 x 知財実務: AIモデルの進化とハイブリッド運用戦略

知財プロフェッショナルのための戦略的な  
導入プレイブックと意思決定フレームワーク

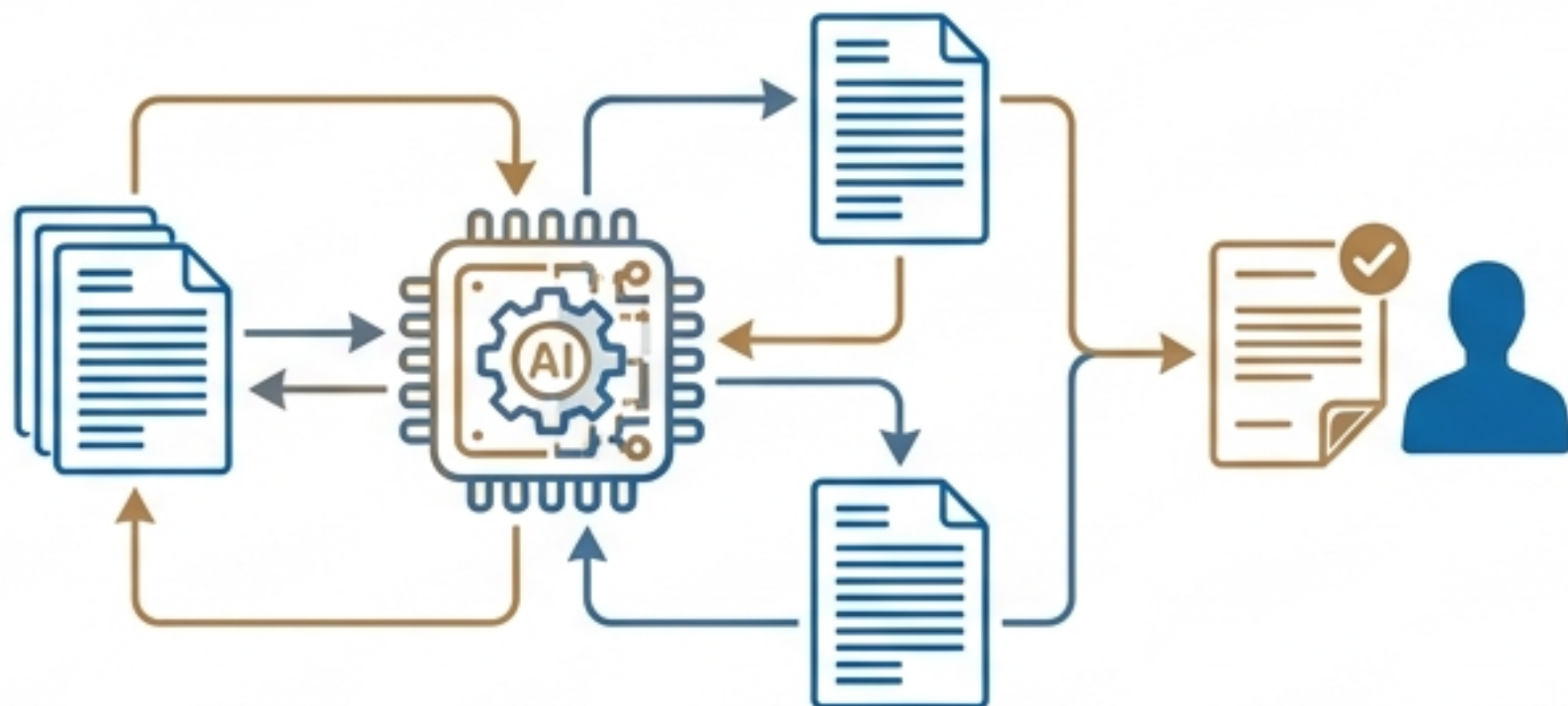


# 単なる補助から、長期間の複雑案件を担う「準主担当」へ

アシスタント (Opus 4.8)



準主担当オーケストレータ (Fable 5)

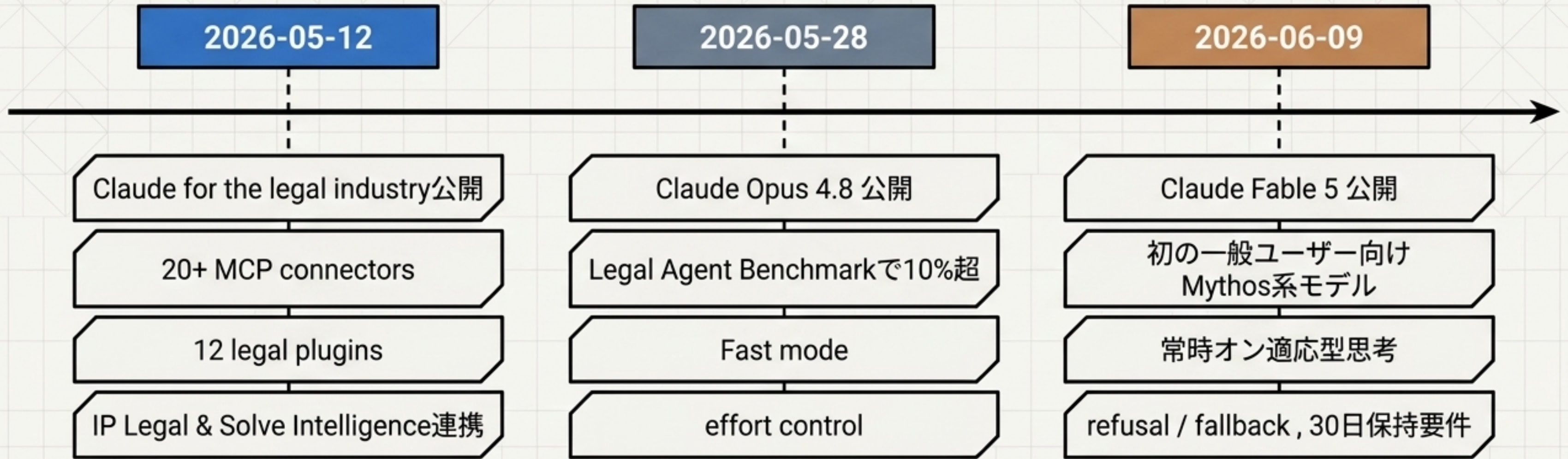


本質的な進化: 単なる「賢さの微増」ではなく、長時間・多資料・多工程の案件を、証拠を保持しながら最後の成果物まで運び切れる能力の向上。

得意領域: 先行技術調査、特許性評価、拒絶理由通知 (OA) 対応、クレームチャート、FTO、DDなど、「長くて、途中で崩れやすく、証拠管理が要る」仕事。

絶対的ルール: Opus 4.8の完全上位互換ではない。複雑案件はFable 5、高機密・ZDR案件はOpus 4.8の「二層運用 (デュアルレイヤー)」が必須。

# Fable 5の真の価値は、先行する法務スタック整備によって解放される



## 戦略的インサイト

Fable 5単体での導入ではなく、「5月の法務・知財スタック整備の上に、6月のFable 5が載った」と理解する方が実務的。

# 実務価値を最大化する3層のバリュー・エコシステム



「モデル単体」の比較ではFable 5を過小評価し、「すべてをAIの手柄」にすると過大評価になる。知財における真の価値は、この3層の掛け算として現れる。

# Fable 5とOpus 4.8の知財実務向けコア・スペック比較

	Claude Fable 5	Claude Opus 4.8
モデルの位置づけ	最高性能 (高難度案件の主担当)	Opusティア最高 (フォールバック・保守運用先)
推論モード	適応型思考が常時オン (thinking: disabled不可)	手動調整 (xhigh推奨)
コンテキスト / 出力	100万 / 128k	100万 / 128k (据え置き)
キャッシュしきい値	512トークン (定型指示が安価に)	1024トークン
コスト	入力\$10/出力\$50 (Opusの2倍)	入力\$5/出力\$25
データ保持	30日保持必須 (ZDR不可)	商用ZDR・学習不使用可

# Opus 4.8の典型的な実務痛点をFable 5がどう解決するか

## Mode Forgetting

複雑なOA対応で thinking 指定を忘れ、能力を引き出し損ねる。

## Fable Solution

適応型思考が常時オン。自動的に最適な推論深度（highから）で実行開始。

## Scattered Context

FTOやDDなど多文書・多論点案件で、途中から文脈が散漫になる。

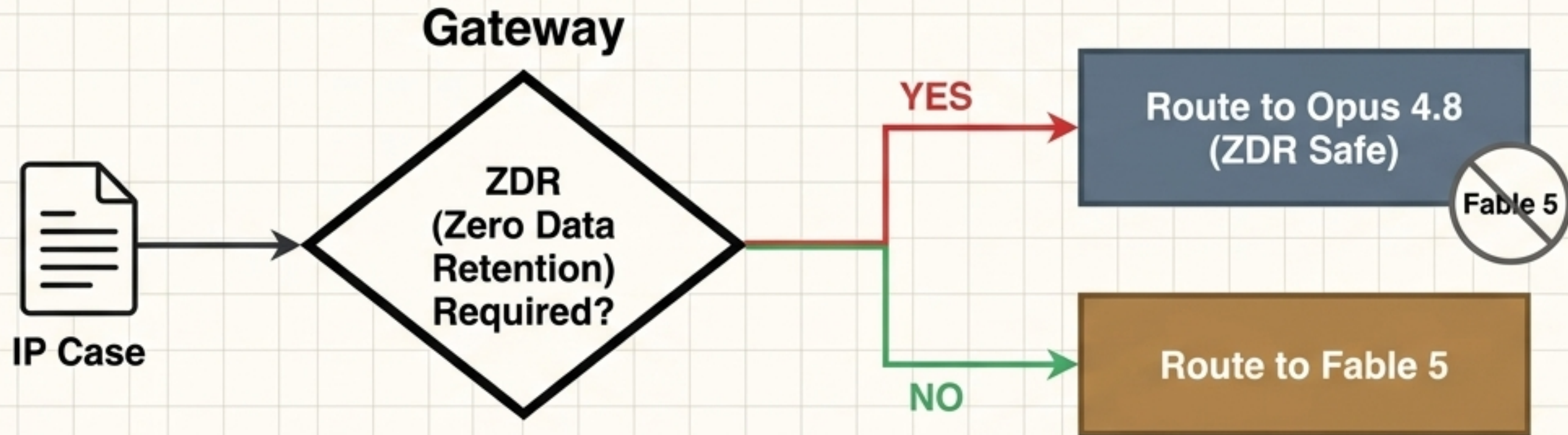
長時間自律・並列サブエージェントにより、「資料収集→選別→表→草案」まで一筆書きで進行。

## Fake Progress

長い調査報告で「作業しました」型の虚偽進捗（捏造）が出る。

ツール結果で主張を監査する指示により、捏造進捗をほぼ排除（証拠ベースの進行）。

# コンプライアンス上の致命的な境界線：30日データ保持ルール



## Fable 5の制約

Mythos級の対象モデルとして、信頼・安全目的で「30日間」のデータ保持が強制される。

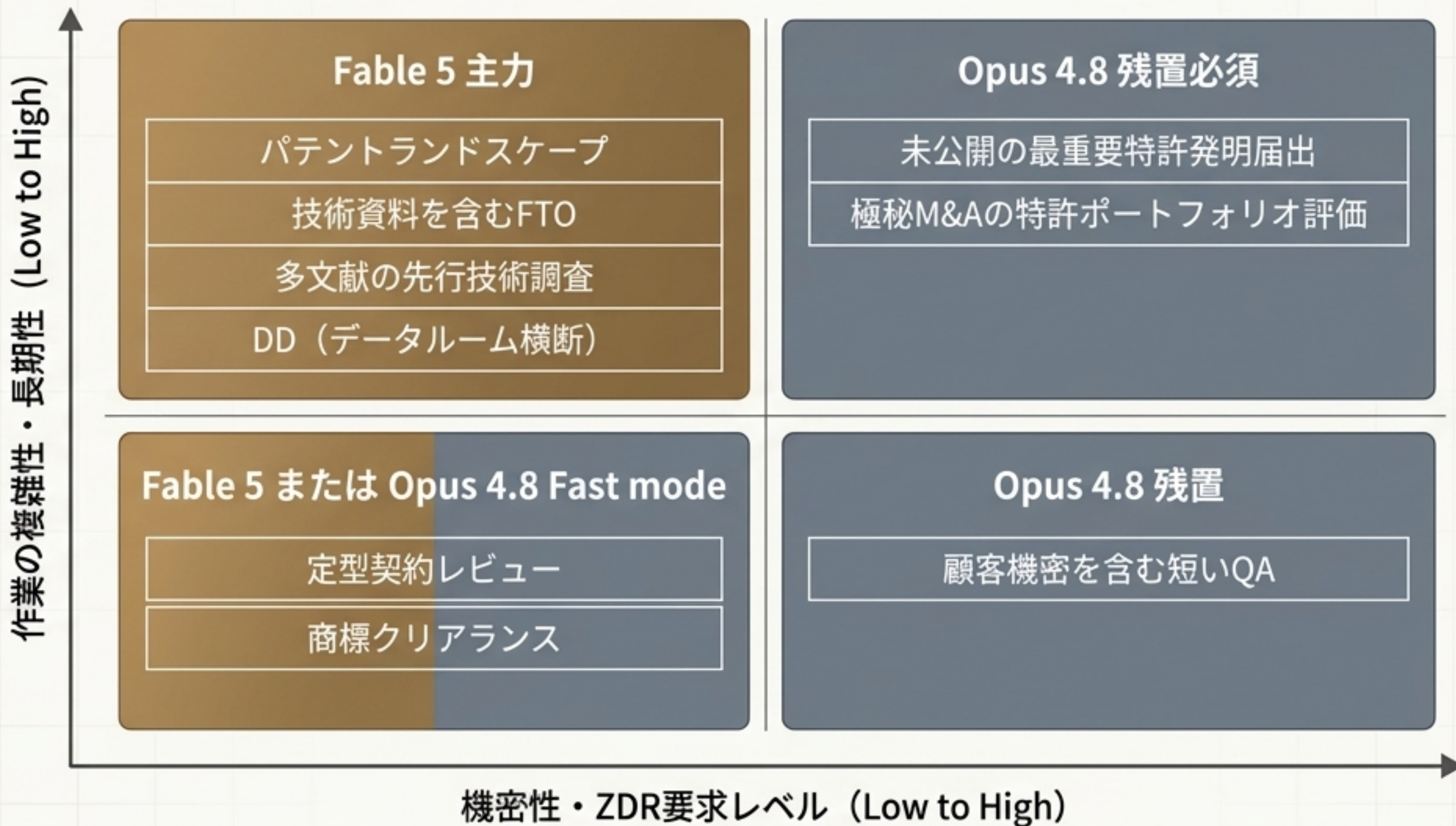
## ZDR環境の崩壊

商用利用におけるZDR (Zero Data Retention) 前提のワークスペースでは、Fable 5をそのまま利用することはできない。

## 実務上の結論

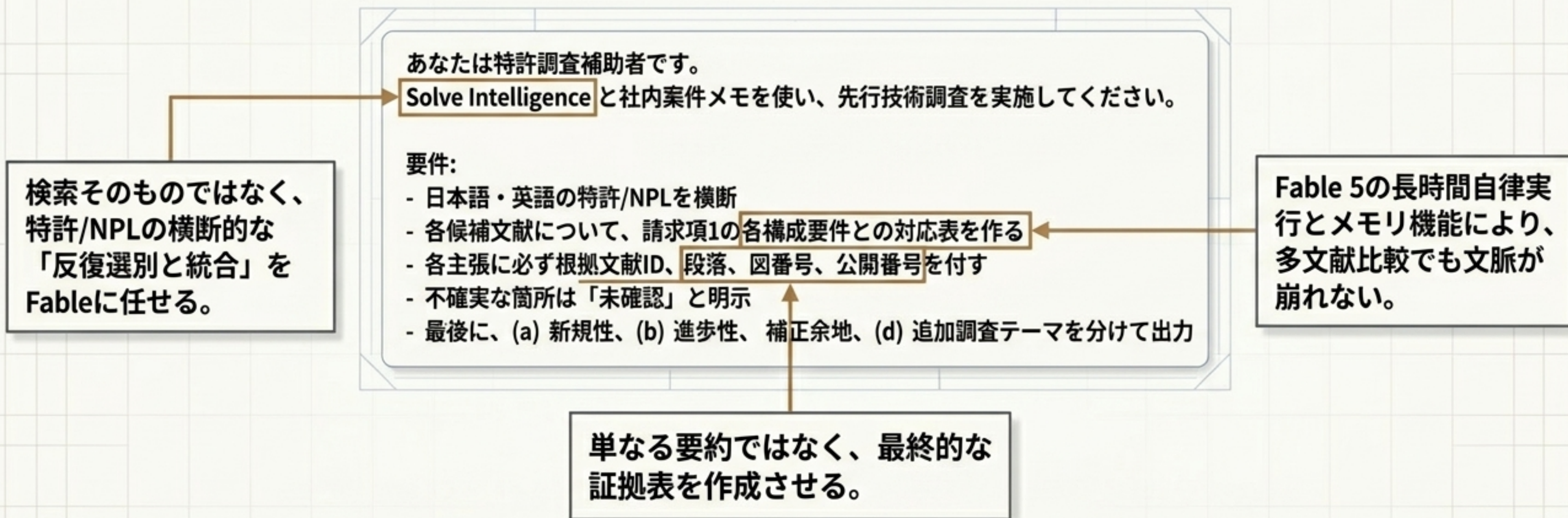
最重要秘密案件、特権・守秘・開示制限が優先されるクライアント機密案件では、能力に関わらずOpus 4.8を残置する運用が必須。

# 知財ワークフロー別・モデルアロケーション・ヒートマップ



中間生成物が多い仕事（クレームチャート、FTO、OA）ほどFable 5の改善効果が大きいの。

# 実務ディープダイブ1：特許調査とFTOにおける推論維持



**Key Takeaway:** Fable 5の価値は「検索して終わり」ではなく、検索結果を選別し、差分化し、論点マップと証拠表のドラフトまで一気通貫で作ることにある。

# 実務ディープダイブ2：OA応答とクレームチャートの構造化

あなたは日本・米国のOA対応補助者です。  
以下の拒絶理由通知、引例、現行請求項、明細書サポート箇所を読み、  
応答案のたたき台を作ってください。

出力要件:

- 引例ごとの争点表
- 争点ごとの反論候補を3案
- 補正案を「狭める案」「文言整理案」「実施例寄せ案」に分ける
- 各案について、明細書サポート箇所と副作用を明示
- 法域ごとに未確認事項を列挙
- 最後に弁理士レビューで必ず確認すべき赤旗を5件以内で出す

あなたはクレームチャート作成補助者です。  
PatSnap / Solve Intelligence のライブデータを使い、  
対象特許クレームと被疑製品仕様書・公開情報を照合してください。

出力要件:

- 構成要件別の claim chart
- 各セルに証拠リンク、引用文、画像/図表の参照位置を付す
- 充足、不明、非充足を分類
- 前提事実と推定事実を分離
- 最後に、追加で収集すべき証拠を prioritized list で出す

## Focus: 曖昧さ処理と長文一貫性

補正案を複数ルート（狭める、文言整理、実施例寄せ）に  
複線化し、副作用と赤旗（Red Flags）を抽出させる指示。  
Fable 5は複数法域の分岐を構造を保ったまま出力可能。

## Focus: 視覚理解（Vision）と反復精査

特許図面、SEM/波形、製品比較表などの密な技術画像  
（dense technical images）の解釈精度が大幅向上。  
PatSnap等と連携し、証拠リンク付きの element-by-  
element チャートを作成。

## プロンプトのパラダイムシフト：「思考」ではなく「証拠」を要求する



**Show your reasoning**  
(思考過程を示せ)

Why it fails now:

Fable 5では生のCoT (Chain-of-Thought) は返らず、要約思考のみになるため、推論抽出 (reasoning extraction) は拒否カテゴリに触れるリスクがある。

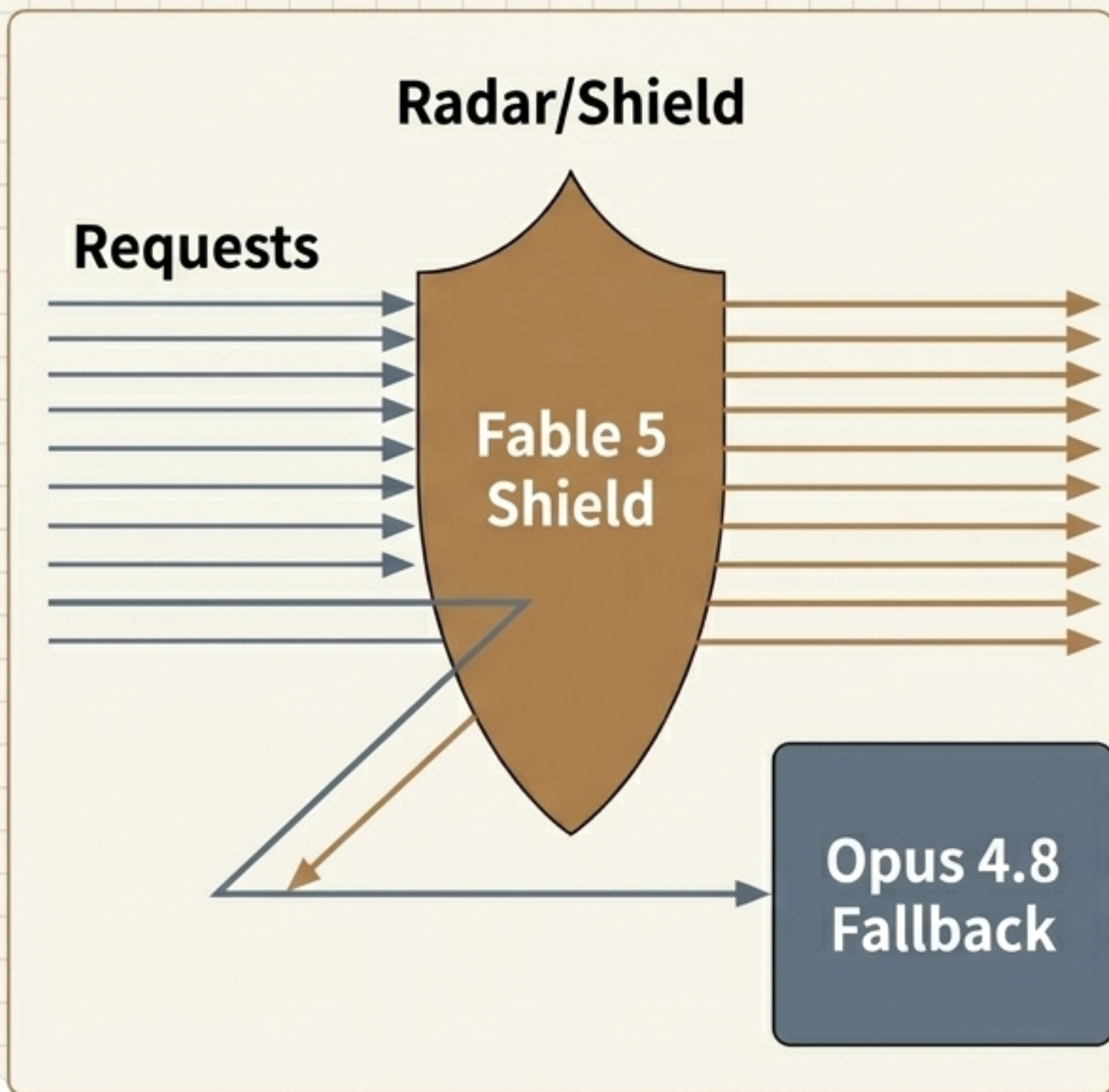


**Show your evidence**  
(根拠文献ID、段落、  
図番号を示せ)

Why it works:

法務・知財で真に必要なのは「AIが何何を考えたか」ではなく「どの条文・どの段落を根拠にその文言になったか」。ツール結果で主張を監査 (Audit) させる設計が必須。

# 安全性分類器の誤検知リスクと自動フォールバック戦略



**5%未満のトリガー率:** Fable 5のセーフガード発火率は平均5%未満だが、無害なリクエスト (harmless requests) の誤検知も発生する。

**バイオ・サイバー領域の摩擦:** ソフトウェア特許の脆弱性分析や、バイオ・創薬特許の文献読解など、知財上は正当な指示が「拒否 (refusal)」に遭う可能性がある。

**必須のアーキテクチャ:** 運用上の摩擦を回避するため、拒否を監視し、シームレスにOpus 4.8へ切り替える「自動フォールバック・チェーン」を組み込むことが前提となる。

# 法域ごとの厳格な実務ガイドラインと人間責任の原則

## 翻訳と一次資料 (Japan)

法務省の原則に基づく。  
Fable 5で多言語資料を  
横断する際、英訳はあく  
まで参考。法的効力のあ  
最終確認は、必ず日本語  
原文（一次資料）に戻っ  
て行うこと。

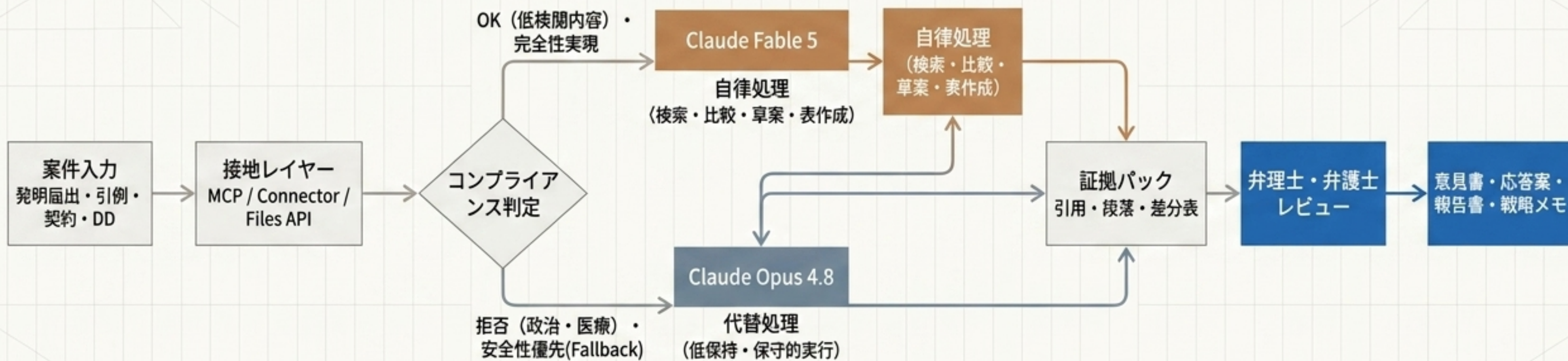
## USPTOガイダンス (US)

2024/2025年基準。AIは  
発明者ではなくツール。  
Fable 5でドラフトを起こ  
しても、発明者認定・既  
存の正確性義務・署名責  
任はすべて人間に帰属す  
る。

## 日本弁理士会ガイドライ ン(JPAA)

2025年4月策定。生成物  
の正確性は保証されない。  
AIに「判断を置き換える」  
のではなく、調査・比較  
・草案作成を前倒しし、  
「最終責任を人間に集中  
させる」運用へのシフト。

# 知財実務におけるデュアルレイヤー・ルーティング・アーキテクチャ



# ハイブリッド運用を今日から実装するための3つのステップ

